

# Feature

Super Global High School Associate

## スーパースーパーグローバルハイスクール(SGH) アソシエイトの活動が始まっています

**SGH**  
ASSOCIATE

文部科学省によるスーパースーパーグローバルハイスクール(SGH)アソシエイト校の指定を受け、4月から新たな一歩を踏み出した名古屋国際中学校・高等学校。未来のグローバルリーダー育成に向けて、学校生活のさまざまな場面で『SOCIAL ACTION! (社会的活動)』というテーマに基づく、実践的な国際教育がスタートしています。SGHの各取り組みを行う上での基礎知識を習得するため、今年度から「総合的な学習の時間」は全学年が共通の教材を使用し、ディスカッション中心の主体的な授業スタイルを展開。各教員の個性を尊重しながら、多角的に社会問題の存在を知り、

その要因について理解を深めています。6月に行われた国際理解講演会では、国際支援活動に携わる講師の話に熱心に耳を傾け、「グローバル市民としての国際貢献」について学びました。また、授業外での生徒の自主的活動として、フェアトレード商品の製作・販売学習を行う「Kokusai Blend Coffee」プロジェクトも発足。教科とSGH活動を融合させた授業や、普通科進学コースでの世界共通教材を用いた授業など、教員の意識も変化しており、学校全体に活気がみなぎっています。☑



### Report 1 生徒の「芽吹き」につながった国際理解講演会

を通じて開発問題に取り組み、現在は「未来を担う子供たちにメッセージを伝えたい」という思いから講演活動を行っています。本校では「グローバル市民としての国際貢献」をテーマに、女性という視点から見た国際連合における差別や考え方の相違、海外における日本人の立場など、国際連合・新興国での体験

をもとに、生徒たちとの対話を交えながら講演をしていただきました。グローバル社会を生きるために「大きな夢を持つこと」、「遠回りしても実りある道を選ぶこと」、「中・高校生でもできること」など心に響く内容は、今後の持続可能な開発に関わっていく生徒たちの「芽吹き」につながったと思います。☑

#### ✦ 生徒たちが見せた、主体的な態度に手応え

今年度の国際理解講演会では、長く国連機関で活躍された池亀さんの体験談に触れ、「自分たちが国際活動に対してどのようなアクションを起こせるか」について考える良いきっかけとなりました。質疑応答の時間にも積極的に発言するなど、受け身の姿勢で話を聞くのではなく、主体的に参加していた姿が非常に頼もしく、「例年以上に集中して取り組めた」という声からも、SGHの諸活動の効果が少しずつ生徒たちに浸透していることを実感しました。☑



▲杉山友規先生

2015年度の国際理解講演会(6月20日)が、アフリカ連合開発機構総裁特別顧問を務める、横浜市立大学客員教授の池亀美枝子さんを迎え実施されました。池亀氏は国連の専門機関である『国連食糧農業機関(FAO)』に、日本人女性初のアソシエイトエキスパートとして入構。1983年に国連世界食糧計画(WFP)へ移り、パキスタンやブータン等の国で食糧援助

### Report 2 『Kokusai Blend Coffee』本校オリジナル商品を制作!

昨年度の一貫5年生が取り組んだフェアトレード(以下、FT)学習を引き継ぎ、今年度もFT商品の製作・販売学習を行うことになりました。Aoyagi Coffee Factory(日進市)代表の青柳信弥さんと連携し、公募で集まった生徒たちが本校独自のドリップバッグ・コーヒーを考案します。これまでの活動で生徒たちは、ワークショップ形式でFTの仕組みを学び、実際のFT商品の試飲をしたり、認証マークやパッケージデザインの違いを議論しながら学習。そして、FT活動の担い手である青柳さんを本校に招き、FT活動に携わった経緯やコーヒーの淹れ方などを教わりました。今回の活動のポイントは、製品が完成する過程を理解する中で、世界の貧困問題に対して考察を深める点にあります。

す。安価で流通する商品の中には、その製造過程で児童労働が関わっていることが少なくありません。生徒たちに期待するのは、「フェアトレード」という視点から市場経済と自分たちの生活を見つめ直すきっかけとすること。今後は文化祭での試作販売、実際の店舗での販売に向け商品開発を進めます。☑

#### ✦ フェアトレード活動を広める主体的取り組み

『Kokusai Blend Coffee』の製作・販売学習には、コースや学年を越えた約20名の生徒が参加し、1学期はFTや児童労働の問題に関する基礎を学びました。2学期からは企業との連携など学外交流を図りながら、FTの取り組みをいかに学外へと波及させていくかを、生徒が中心となって考えていきます。本校オリジナルFT商品の製作・販売学習を通して世界中の社会問題に関心を持ち、積極的に働きかける態度やスキルを磨くことを期待しています。☑



▲内藤主祐先生



### Report 3 総合学習のテーマは「みんなで考える・協働学習」

イビティに挑戦。SGH担当教員の「問いかけ(ワークシート)」に、生徒がディスカッションを通して答えるという流れで進む授業は、担任ごとに趣向を凝らした個性豊かな内容で展開され、生徒たちの多様な議論が膨らむ活動になっています。☑

#### ✦ 教員の「カラー」が表れる個性豊かな授業

総合の授業では「お弁当のおかず」など身近な題材を用いて、社会課題の存在や要因を理解し、その解決に向けて中高生の自分に何かできるかを考えるよう導きます。全学年・クラス共通のワークシートを使って、授業を展開しました。「行動」と「知識」の連動を意識しながら、「SOCIAL ACTION!」を起こすための知識・技能を修得します。☑



▲須永馨方先生



2015年度の「総合的な学習の時間(以下、総合)」では、「みんなで考える・協働学習」というテーマのもと、全校生徒が同じ課題に取り組んでいます。1学期は「経済活動と貧困」「社会生活と循環」「多文化共生と減災」という3つの研究テーマにおける、基礎学習のための講話とアクテ

Super Global High School Associate

## SOCIAL ACTION!

持続可能な開発を担う  
人材育成プロジェクト

### Report 4 語学研修フィールドワーク in London



□ ロンドンでさまざまな職業の人に声をかけ、SGHに関する3つのアンケートを実施。アンケートには協力的で、英語で「逆質問」を受けた生徒もいて、世界を身近に感じる機会になりました。☑

### Report 5 ネパール地震に伴う募金活動



中 学1年社会科の授業での「ネパール大地震」の話題がきっかけとなり、「何かできないか」という生徒たちからの発案で募金活動が始まり、最終的には全校生徒へと活動が広がりました。☑

### Report 6 世界一大きな授業



普 通科進学コース1年で世界共通の教材を用いた授業を実施。子どもの就学や大人の識字問題に触れ、「学んだことを他者に伝えたい」「積極的に国際交流して興味を持ちたい」という意識につながりました。☑

### 活動 Action アクサ ユネスコ協会減災教育プログラム

SGHの活動の一つとして「多文化共生と減災」に取り組むに当たり、本校は学校における減災(防災)教育を推進する「アクサ ユネスコ協会減災教育プログラム」に取り組んでいます。プログラムでは「多文化社会と減災～外国人にも安全に暮らせる社会を目指して～」というテーマのもと、講習会へ

の参加や多言語減災マップ・映像の作成などを通して、教員自身が減災(防災)について学び、地域における課題発見と解決策の創造に積極的に働きかける態度とスキルを学内での指導につなげます。昭和消防署との協働による「防災・減災体験会」の開催、救命講習の受講など、生徒や教員が参加で

きるプロジェクトの準備も具体的に進行中。今後も減災に関する知識を身につけるため、実際の災害現場で救援活動に携わる救命救急士や自衛官の話聞く機会を用意して、日本、そして世界で起こっている災害を「自分たちの問題」として捉えられるグローバルな感覚を養成していきます。☑

### 活動 Action 今後のSGHの取り組み

SGHアソシエイト校に選ばれたことで、本校がこれまでに取り組んできた多彩な国際教育に「軸」ができ、国際理解講演会、語学研修、英語教育などあらゆる活動が体系化されつつあるという手応えを感じています。生徒の主体的活動においても、既に活動がスタートしているオリジナルコーヒー

の製作・販売学習(「経済活動と貧困」)に加え、「社会生活と循環」、「多文化共生と減災」の両研究テーマでも新しいプロジェクトが予定されており、知識と行動の連動による活動が広がりをみせています。また、SGHの取り組みと教科学習を結びつけた授業を行うなど、教員の意識や行動にも確

かな変化が生まれています。大学入試制度の改革が予定されているなか、SGHの活動で磨かれる創造力や自主性は、社会で活躍する上で欠かすことのできない能力。今後ともさまざまな視点から社会課題に関わる機会を用意して、生徒たちの関心を引き出し「行動力」を育てていきます。☑



▲黒宮祥男先生(SGHアソシエイト主任)



▲藤井新次郎先生